

## 日本学術会議 第25期 哲学委員会「古典精神と未来社会」第2回分科会 議事要旨

日時：令和3年2月20日（土）10時00分～11時10分

場所：Zoomによるオンライン開催

（出席 10名）

小倉、梶原（幹事）、加藤、木村、佐藤、土屋、中島（委員長）、納富（副委員長）、吉水、渡邊

（欠席 0名）

### 議 題

#### （1）前回議事要旨の確認

前回の議事要旨を確認した。

#### （2）岩波ジュニア新書の企画について

意見交換を行なった。

中島：

前回のものは高校生にはやや難しかった。岩波諸点の担当者（山本慎一）に中島委員長が連絡をとり、もう少し易しくすることで意見が一致した。

座談会を行ってはどうか。

古典について、近代的、今日的なテーマもとりあげ、ダイナミックな読み方を提示してはどうか。たとえば論語などでも。

納富：

公務員試験については、具体的な試験問題につなげることが難しい。しばらく保留。古典を中心に進めたい。古典についても、レベルなど、バランスを考慮してはどうか。中高の入試では、2つを並べて解釈させることを行っている。中高の現場では必ずしもうまくいってはいないようだが、この分科会で同様なことを行い、いわばいい見本となるものを提示してはどうか。

中島：

座談会より、シンポジウムにして公開すれば、情報発信にいいかもしれない。

吉水：

前回のジュニア新書は、全体の統一感をやや欠いていた。そのためバランスの点で、難しさのレベルなど少しばらばらだったかもしれない。

別ジャンル・別分野のものを対照させる試みは他でも行われている。古典についても、現代とのつながりを提示する方向を考えてはどうか。

加藤：

インド哲学の講義でも、現代のゲーム、アニメ、漫画などつながる話題がでると学

生は興味を示す。ただし、うっかり現代ものと結びつけると、学生たちはそちらに流れてしまい、かえって古典から離れさせることになることはないか。

渡辺：

例として『キングダム』には、学生の食いつきはいい。入り口として、現代のものはいいかもしれない。『三国志で学ぶ中国語』など。

吉水：

現代とのつながりは、あくまで講義のマクラに使う。そこから哲学へと導入している。日本の漫画は『鬼滅の刃』のように質が高いものが多く、下に見る必要はない。昨年高校生との座談会のように、高校生にアクセスする座談会があるといいのでは。

中島：

難しくしすぎず、高校の先生方が授業をやりやすくなるような資料を提供できないか。

土屋：

古典語を読むこと自体を問題にすると、漫画などからつなぐのとは、アプローチの方向が異なるのではないか。文献学では、どういう文脈で読むのかなどが難しい。「読む」ことによって現代生活とつながる点に気づきがあるのではないか。

中島：

「古典を読む」とはどういうことか、を再考すべきではないか。時代によっても異なっただであろう。各時代で、スリリングな行為であったはず。古典を読むのは大変な作業で、読めないことは当たり前。それこそが面白い。それを伝えたい。

梶原：

古典の原語が何かにもよるのではないか。アニメなど現代ものも、インド古典からモチーフをとったものは、原典とかなり異なることも多い。とはいえ現代の娯楽物を古典の立場から批判する形になってもいけない。

中島：

古典は読めるのか、古典を読むとはどういうことか、ということから考えるべきかもしれない。

今後、アイデアを各自出していく。

5月の連休明けごろまでに、気づいたことや、参考資料などを各自で出して、シェアしてはどうか。Google Drive や DropBox に蓄積していく。

木村：

古典といっても、ジャンルも分野も、皆かなり異なる。ブレインストーミングというより、ある程度方向を決めておいてはどうか。

中島：

一粒で二度美味しい方式：

1. なぜ古典を読むのか
2. 読ませたい古典を示す

加藤：

「なぜ古典を読むのか」PDFをシェア

納富：

座談会などでも、事前にその古典を読んできてくれるわけではなかった。研究者意識（「プロでも古典は本当には読めない」）で臨むのではなく、高校生が読めるように、示していくほうがいい。

吉水

今回は、岩波文庫に入っている原典の購入・講読に導くものであった。そのためややバランスを欠いた。

小倉：

みな一章くらいずつ書いてジュニア新書をつくる、ということによいか。いまの学生は、偉い先生の本や、先生に勧められた本を、読んでいくという方向には進まない。モノや文字（写本や印影など）には関心があっても、おそらく見る機会がない。語学をまなぶ際にも、口に出して唱えて覚えるなどの身体性が伴うと身につくようである。

佐藤：

古典を学ぶことによって、現代社会の歪みを照らし出すことはできないか。

中島：

そのとおり。

中島が共有用ドライブを作るので、連休明けまでに、そこでシェアしていく。

### （3）特任連携会員の推薦について

芦名定道氏に、本分科会の特任連携会員としてお入りいただきたいということで全会一致。

### （4）その他

（記・梶原）